

# 保父会ニュース

1990/10/3

VOL.7

発行 北海道の子どもと保父の会

『トラヤ帽子店』でお馴染みの

中川ひろたかさんと

交流会を持ちました

日程の都合がつかずに中止になった9月の例会の代りのように、「中川ひろたかさんと一杯飲まないかい」という話しが転がりこみ、早速札幌の連中に連絡。九名の参加者が見込めるところから、九月十一日ススキノは「さの字」にて一席持ちました。

中川さんは十数年前、東京の「千早こどもの家」で保育者をしていた経験の持ち主、保育の話、音楽の話様々入り乱れハツパをかけられたり突っ張り合ったり。年齢が近いこともあって旧来の友達のように和気あいあいとした雰囲気ではありましたが、さすがに中川さん、語る言葉の端々に音楽に対する情熱を感じさせてくれました。

この集いの仕掛け人は、藤田さんと同じ北海道子どもとも社旭川の横山さん。旭川で男性の保育者達が「満腹食堂」というバンドを組んで活躍している様子も知らせてくれ、彼らとの交流会をしては、との提案もありました。中川さんや彼らの実践の中から生まれた歌やあそび

歌を札幌の保育者たちに提供するのには君達だ！コンサートやろう！などと尻に日をつけられる一幕もありました。

会も終盤、第二はとポツポツ保育園（船戸くんの園です）での講演会を終えた徳島大学佐野先生と藤田君が駆け付け、睡眠の話から「アサダチ」の話と盛り上がり、半数のものは二次会へと向かいました。

今後機会さえあれば例会に、また例会以外でも色々な方達と語り合う場を設けたいと想っています。今回は日程の都合で札幌のメンバーしか集まれませんでしたが、今後は多くの会員が参加できるよう早めに連絡したいと思っています。また、地方の方々が札幌に来ることがあつたら是非事務局に連絡下さい。例会以外でも集まれる部分だけでも顔を合わせたいと思っています。

いろいろな男性保育者と出会い・語り合える機会といえば、全国男性保育者連絡会の全国交流会は、本当に（良い意味でも悪い意味でも）いろんな男達と会えますよ！是非一緒に参加しましょう！

僕が「保父」を想う時

札幌刑務所 長南 雅雄

僕が保育園に保父として勤めていたのは、今から十年前、仙台市にある東北福祉大学を卒業したその年の四月から九月末までの六か月間でした。今、十年前と書いて、あれからもうそんなに歳月がたつてしまったのかと正直驚いています。

その十年前、僕は何をし、何を考え、何を想い、何を悩み、何を決断したのか……。その決断が、今の自分に何を想わせているのか……。それを、これから少しずつでも文章にしていこうと、今後の僕の課題の一つにしていきたいと思えます。そして、その後学ばせてもらったことも含めて、今「保父」を考え、学び直したい。現在、保父を

やっている人、これからなろうとしている人、やめなくなった人等の気持ちや悩みを、ほんの少しでも一緒になって考え悩みたい。経済的なことや、将来的なこと、一社会人から見た「保父」、今二児の父親になって子どもから教わったこと、また今後期待したいこと等々、これからも会合の時に、是非皆さんと話し合いたい。

そして、「幼児教育研究」を皆さんが、それぞれに独自のやり方で探求されていくことを強くお願いし、また僕もその一人でありたいと思います。

全国交流会に一緒に行こう！

集まろう 語り合おう

保育の未来を 生きがいを

のテーマのもとに二年に一度行っている、全国男性保育者連絡会主催の第六回男性保育者全国交流集会

― 感じよう心と身体で―

が次の要領で行われます。

時 一九九〇年十一月二十四日(土)

二十五日(日)

所 愛知県勤労会館+ひまわり保育園  
内容 パネルディスカッション

『男性保育者の現状と未来』

記念講演

全国文化大交流会

参加費 五〇〇〇円

行ける方は事務局まで

保父男くん k.

シャボンだ！



シャボンだ！



パチン

ショボン！



第二はとポツポ保育園 船戸 敬悦

「ト子ちゃんがお父さんお母さんと一緒に保育園を訪れた時「大きい子やなー!」と思った。四才児なのに小学一〜二年生の体格、体重が二十八kgもあるというのにはビックリした。私がト子ちゃんの手をとって「おはよう」と言うと、ト子ちゃんはそんなことにはおかまいなしといったふうで、四才児クラスばら組の保育室をものめずらしそうに見て回っていた。カレンダーの数字を見て何やらブツブツ言っているかとおもえば、フイツと園庭に出ていきブラブラと見てまわっていた。私とト子ちゃんの父母と話し合いヲしている最中に「ギャーツ」という子どもの悲鳴が聞こえたので急いでとんでいってみると、ト子ちゃんの前で三才児の男の子が悔しそうに泣いているのだ。どうもト子ちゃんが叩いて勝手にオモチャを取ったらしい。私が「どうしたん?」と聞くとト子ちゃんは急に「ウーン」と大声で泣き出し、頭を地面に何

回も何回も打ちつづけるのだった。「だいじょうぶやで、オモチャで遊びたかつたんか?」とオモチャを渡そうとしても「ウワーウワー」と大声で泣き続け、その鳴き声の大きさに回りにいた子ども達もビックリしている様子だった。とにかく最初のうちはト子ちゃんにつきつきりであった。下駄箱の上や非常用すべり台の上などの高い所が好きで、そのたびに下に降るすのも一苦労だった。抱かれることをいやがり、おはなししようとしても目を合わせようとしないのである。そして、あつという間にどこかにいつてしまつという多動さだった。とにかくト子ちゃんと仲好しになろう、子持ちが通じあえるようになればト子ちゃんの興味ややりたいことを見つけたしていけるだろう。そして、ばら組の子ども達も見守ってくれるだろう!という樂觀的見通しを抱きながらも、一日の保育が終わって寮に帰ると心身ともにくたくた、バタンキューの毎日であった。(次号に続く)

### 神奈川県男性保育者の現状

現在、神奈川県下には私立保育園に二十五名、公立保育園に四名、公立児童福祉施設に四名、児童相談所に一名計三十四名の男性が日々保育に従事している(このうち私立保育園では二名以上の在籍の園が三園あった)。無認可保育園や私立の児童福祉施設にもかなりの数の男性が在籍していると考えられるし、最近各地で報告されるようになった保育園の体育指導員の位置づけをどうするかという問題もあり実数はかなり増えると推測される。

七五年当時、県下には七名の男性がいたが、八三年には十五名、八五年には二十五名、そして九〇年には三十四名と増加してきている。

東京都下を見てみると同じく増加を続け、八九年現在、私立保育園に百名、公立保育園に九十二名の男性が在籍している。

このように、県下においても着実に増えている。しかし東京に比べるとまだ少ないのが現状である。東京には県下の三倍近い二万二千の保育園があるので単純比較は出来ないものの二百名近い男性が在籍している現実には、私たちが「多いなあ」というのが実感

である。

県下の男性保育者数が思うほど増えない理由は、おおまかには

一、自治体での採用が不十分  
二、男性を入学させてくれる養成校が少ない。

三、賃金が安く将来に不安

四、実践の過程で男性の役割やメリツトを十分に啓蒙出来ていない等があげられよう。

八三年に横浜市で初めて三名の男性を採用し現在七名の男性が在籍している。また川崎市も八九年に二名を採用し現在に至っている。県下で男性の採用実績を持っているのは二市のみである。私たちが八六年に調査した時点では、横浜、川崎、平塚、鎌倉、小田原相模原、秦野、綾瀬、大井、愛川、相模湖の各自治体が男女の区別を設けていず、受験可能であった。またこれらの中で過去受験者があったのは、横浜、川崎、相模原、秦野の各自治体であった。受験可能な自治体の担当者に電話で取材した際「受験は可能ですが採用となると…」という声も多かった。

これらの県下の状況に対し都下では十一区（採用六区）十五市（同五市）が採用試験受験可能であり、男性保育者も九十名を越えている。

（この文章は、神奈川県男性保育者連絡会の機関誌「かながわの男性保育者」より抜粋しました。）

## お知らせ

かねてより受験準備中だった函館の別府さんが青森にて見事保母試験に合格されました。本人の弁によると、この保父会ニュースに連載中の船戸君の筆による「風に吹かれて」保父修業物語」を読んで感動し、一念発起して挑戦したとの事。このニュースが役に立ったことを思うと、事務局一同ニュースを続ける原動力となる出来事でした。

## 事務局より

最近、投稿があまりなく、次回ニュースの発行が危ぶまれています。皆さん！身近な話題で結構ですので是非原稿を送って下さい、助けて。

## 十月の例会

十月の例会は、十月二十日（土）午後六時半より、いつもの道庁別館二階第一・二会議室にて関口先生を迎えての三日の勉強会を行います。

今回は、実技を交えての講習ですので、是非お近くの方をお誘いの上参加をお願い致します。終了後は、講師も困んで旭川の寺島夫妻の結婚祝いもしますのでこちらもよろしく。

### 会計よりのお知らせ

平成二年度に入り早くも半年がたちましたが、年会費（三千元）を納めていない方は、早めに「北洋銀行」もと保父の会会計「瀬尾昌彦」まで振り込みをお願いします。

### 事務局

〇〇三 札幌市白石区北郷二条三丁目  
北白石保育園内